

保育内容演習ⅠⅡを通した学生の主体的な学びの形成に 資する保育者養成プログラムの構築（2）

—キッズランドの企画・運営を通した学生の育ち—

Construction of nursery teacher training program for developing students'
active learning through the childcare contents seminar I II (2):
Students' improvements through planning and conducting "KIDS LAND"

中井悠加 梶谷朱美 渡邊寛智 小山優子

(保育学科) (保育学科) (保育学科) (保育教育学科)

キーワード：保育、子ども、保育者養成、主体的な学び

1. はじめに

本学では、昭和47年から地域の子どもたちに公演を行ってきた「児童文化（ほいくまつり）」の授業を短大から平成30年度に新設した四年制大学のカリキュラムに移行した。「児童文化」のように自分たちで活動案を考え、発表に向けての準備を行い、子どもたちや保護者に発表する過程を通じて、保育者に必要な思考力や主体的に行動する力を新制の短大でも引き続き育成することは必須である。学生の主体的な学びをより実質化し、実践力を確実に身に付けるための効果的なカリキュラムを再構築することが求められる。そこで、新短大部保育学科に「保育内容演習ⅠⅡ」の授業を新設し、この授業実践を通して学生に主体的に考え実践する力を養い、保育者としての力量を高めるカリキュラムの開発を行う。その際、より効果的で魅力あるカリキュラムを実現するためのインストラクショナル・デザイン¹⁾に基づき、計画した内容を実践・発表し、実際の子どもたちの反応から計画案を省察・評価することを通して、子どもへの望ましい表現指導の方法を習得できる学びのサイクルを形成するプログラムを目指した。

本稿はその研究・授業の一環として、本学の大学祭である飛鳥祭（2018年10月13・14日）にて2日間にわたりキッズランドとして開催した子ども向けの参加型遊び場ブース（ものづくりブースとあそびブース）の企画・運営、およびその過程で見られた学生の学びについて報告することを目的とする。

2. 「保育内容演習ⅠⅡ」の目的と目標

「保育内容演習ⅠⅡ」の授業は、保育士養成・幼稚園教諭養成の必修科目である「保育内容の指導法」に位置付く科目であり、短大保育学科の1年生が年

間を通じて学修する。この授業は、保育内容「表現」「言葉」「健康」「人間関係」「環境」の5領域の内容を総合的に取り入れた幼児向けの表現活動を計画・実践するとともに、幼児への適切な指導方法の理解を目的とする。学生が保育内容の5領域を統合した歌や手遊び、体を動かす遊び、ペープサートやパネルシアター、人形劇や人間劇（演劇）などの表現活動を創作し、授業の最終回に子どもや保護者を学内に招いて発表会を行ったり、子どもたちが遊んだり製作活動ができる遊びコーナーを計画・準備し、大学祭で遊び場ブースを自分たちで運営する。その過程で、計画した内容を発表し、実際の子どもの反応から計画案を省察・評価し、幼児への望ましい表現指導の方法を習得する。そうした学生主体の活動を学生に経験させる過程で、保育者としての意識の育成と実践力の向上を目指す。

保育所や幼稚園では普段、保育者が子どもを集めて絵本の読み聞かせをしたり、季節の歌を歌ったり、活動の合間に手遊びやクイズをしたりする。誕生日会や行事の際には、他の保育者と協働して劇や出し物をしたり楽しい会になるように準備・実施する力が求められる。日常の保育の中にある、子どもとの楽しいひとときを実践できる力を育成するために、「保育内容演習ⅠⅡ」の授業では「子どもたちが主となって、作ったり遊んだりする活動」としてキッズランドを、「保育者が主となり、子どもたちに見て参加して楽しむ活動」として1月発表会のキッズシアターを実施した。この授業を通して学生が身につけるべきねらいは次の通りである。

- ① 幼児の表現活動の具体的な内容を理解し、幼児の発達に合わせた活動内容を知る。
- ② 幼児にふさわしい教材を多方面から研究し、学生間で話し合いながら幼児の活動を計画する。
- ③ 幼児が楽しめる活動案を具体化し、学生間で協力して発表までの準備をする。
- ④ 幼児が楽しめる活動案を具体化し、リハーサルを繰り返しながら、学生間で計画案を改善する。
- ⑤ 実際に表現活動の発表を行い、その活動について省察・評価する過程で幼児の指導法を習得する。

なお、授業における学生同士の話し合いの過程で、学生が大学祭の子どもの遊び場コーナーを「キッズランド」、1月の実践発表会を「キッズシアター」と命名したため、以下その名称を使用する。

3. キッズランド概要

キッズランドに向けた計画・準備は、春学期「保育内容演習Ⅰ」の第13・

表1 保育内容演習Ⅰ 授業計画

【春学期】「保育内容演習Ⅰ」(4～9月)

講義日	回数	授 業 内 容
4月10日	火	1 授業の趣旨と授業内容の説明、1月発表会(キッズシアター)参考ビデオ視聴①
4月17日	火	2 キッズシアター参考ビデオ視聴②、図書館で教材調査【宿題】「キッズシアターの活動案を考える」
4月24日	火	3 おはなしレストラン(大学内絵本の図書館)でキッズシアター活動案の教材調査
5月1日	火	4 学生全体の前でキッズシアター活動案の個人発表、活動案の決定とパート決め
5月8日	火	5 キッズシアターパート別題材決め①、全員に向けて活動案報告(以後、授業終了時に毎回)
5月22日	火	6 「昔話の意義と再話・台本の作り方」講義、パート別題材決め②、活動案報告【宿題】「学びの記録」
※5/22以降、空きコマに各パート別で自主活動を行う！		
5月29日	火	7 パート別題材決め③(活動内容の計画)、活動案報告【宿題】「大学祭(キッズランド)活動案を考える」
6月5日	火	8 パート別題材決め④(活動内容の計画)、活動案報告、パートリーダーの決定
6月12日	火	9 保育2年による発声練習講習と各パート指導、パート別台本作り⑤(活動内容の計画)、活動案報告
6月14日	木	保育2年による「ほいくまつり」パートリハーサル見学、コメント用紙の記入
6月19日	火	10 保育2年による発声練習講習と各パート指導、パート別台本作り・製作・準備・練習⑥、活動案報告
6月26日	火	11 発声練習、パート別台本作り・製作・準備・練習⑦、活動案報告
7月3日	火	12 発声練習、パート別台本作り・製作・準備・練習⑧、活動案報告
7月10日	火	13 発声練習、パート別台本作り・製作・準備・練習⑨、活動案報告
7月17日	火	14 学生全体の前でキッズランド(大学祭)活動案の個人発表、グループの決定
7月24日	火	15 キッズランド(大学祭)の遊び場ブースの計画・準備①、活動案報告
7月31日	火	16 発声練習、キッズシアターの全体リハーサル①(各パート発表)【宿題】半期授業のふり返りレポート
8月2日	木	3役選挙・3役の決定
夏休み中		自主活動として各パート別にキッズシアターの題材選び・台本作り
9月末		大学祭の遊び場ブースを「キッズランド」と決定、大学祭チラシ案完成

14 回および秋学期「保育内容演習Ⅱ」の第1・2回の計4コマ分を使用した(表1・表2)。以下では、それらの計画・準備過程について詳述する。なお、キッズランドおよびキッズシアターの計画・準備・実施に際し、小山は全体計画、梶谷は地域との連携、渡邊は会場環境整備、中井は来場者アンケート作成および広報をそれぞれ主に担当しながら、学生への指導は各自が行った。本稿(2)の全体計画を中井が、「4 学びの記録から見た学生の育ちについて」を梶谷・渡邊が、「5.おわりに」と全体の修正を小山が執筆・担当した。また、個人情報保護に配慮し、本稿において使用する写真については当該学生からの掲載許諾を取り、来場者については全て個人が特定できないよう処理を施している。

表2 保育内容演習Ⅱ 授業計画

【秋学期】「保育内容演習Ⅱ」(10～3月)

講義日	回数	授 業 内 容
【広報】 保育所・幼稚園などにチラシを印刷・配布 (10/5(金)に配布終了)		
10月2日	火	1 キッズランド(大学祭)の遊び場ブースの計画・準備②
※10/2以降、空きコマ・放課後にパート別で自主活動を行う！		
10月9日	火	2 キッズランド(大学祭)の遊び場ブースの計画・準備③、当日の会場準備
10月12日	金	キッズランド(大学祭)準備
10月13日	土	キッズランド(大学祭)1日目(10時～12時、13時～15時)
10月14日	日	キッズランド(大学祭)2日目(10時～12時)
10月23日	火	3 発声練習、キッズシアターのパート別練習①
10月30日	火	4 発声練習、キッズシアターのパート別練習②
11月6日	火	5 発声練習、キッズシアターのパート別練習③、「台本作りの様式と運用」講義
11月13日	火	6 発声練習、キッズシアターのパート別練習④
11月20日	火	7 発声練習、キッズシアターのパート別練習⑤
11月27日	火	8 発声練習、キッズシアターのパート別練習⑥
12月4日	火	9 発声練習、キッズシアターのパート別練習⑦、チラシ作り(案)の作成
12月11日	火	10 発声練習、パートリハーサル①(ミュージカル、パネルシアター、クイズ、劇)
12月18日	火	11 発声練習、パートリハーサル②(歌唱、人形劇、劇)、1月発表会を「キッズシアター」と決定
【広報】 保育所・幼稚園などにチラシを印刷・配布 (1/10(木)に配布終了)		
1月8日	火	12 発声練習、キッズシアターのパート別練習⑧
1月15日	火	13 発声練習、パートリハーサル③(オペレッタ、パネルシアター、クイズ、劇)
1月17日	木	発声練習、パートリハーサル④(歌唱、人形劇、劇、オープニング・エンディング)
1月22日	火	14 発声練習、全体リハーサル②
1月24日	木	発声練習、全体リハーサル③
1月25日	金	発声練習、全体リハーサル(最終)
1月29日	火	15 学生全体の前でキッズシアター感想の個人発表、【宿題】1年間の授業のふり振り返りレポート

1) 企画・運営のプロセス

(1) 保育内容演習Ⅰ

第 13 回 (7/10) 学生に課題を提示

各学生に向けて、飛鳥祭で催す子ども向けブースでの活動案およびスローガンを考えてくるよう課題を提示した。活動の考案に際しては、「遊びコーナー」もしくは「製作コーナー」のどちらかとし、どのような活動なのか説明も考えるように指示を出した。学生たちは、それぞれが図書館所蔵の書籍やインターネットなどで子ども向けの活動について調べ、次週での発表に向けて準備を進めた。

第 14 回 (7/17) 活動案・スローガン発表 (個人)

各学生がそれぞれ考えてきた活動案およびスローガンを発表した。司会・書記など、発表に係る進行は全てグループリーダーらが担当し、学生による企画・運営の色彩が強い時間となった (図 1)。



図 1 活動案発表を記録する学生

「遊びコーナー」の活動案としては、的当てゲーム、巨大迷路、ぽんぽんカーリング、新聞紙ダーツ、モグラたた

き、段ボール空気砲など、身近な材料を使ったり体を使って遊べる活動が 32 種類挙げられた。「製作コーナー」の活動案としては、紙皿アニマル、楽器作り、ペットボトル水族館、おめん作りなど、51 種類の案が挙げられた。全体的な特徴として、紙コップ、ペットボトル、牛乳パックなどの廃材を活用して、音を出したり身に付けられたり飾れたりするようなものを製作する活動が多く見られた。限られた予算の中で子どもたちが充実した時間を過ごし満足できるよう工夫を試みる姿の現れだといえよう。

また、スローガンとしては 29 案が出された。「親子が楽しめる」「全世代が楽しめる」「子どもたちが主体」「子どもも見ている人も楽しい遊び」といったように来場対象者を意識したものや、「皆が笑顔で」「会場が笑い声でいっぱい」「季節を感じられる会場」という会場全体の雰囲気作りを志向したもの、「子どもたちが自由に思考して遊べる」「頭を使うことができる」「子どもの気持ちに沿った」という活動内容の方向性を示すもの、さらに「地域の方とふれあえる遊び場」「新しい学部の特色を地域の方に広げる」といった地域貢献を意識したものも挙げられた。時間内では決定を促さず、次週以降のグループでの話し合いに向けたブレインストーミングとして位置づけた。

第 15 回 (7/24) 活動案についてグループで話し合い

学生は 1 月の発表会 (キッズシアター) での全 8 グループに分かれ、それぞれのグループで下記の項目について話し合った。

- ① グループで取り組みたい活動案（活動名、活動内容・活動やルールの説明、準備物、対象年齢）三候補
- ② 飛鳥祭に向けてのスローガン
- ③ 飛鳥祭の準備や活動を実施する際のアイデア、配慮事項など、入り口・会場飾り付け案

話し合いにあたり、リーダー・副リーダー・記録者を決め、活動内容や対象年齢、準備物のバランスを考慮しながら学生たちは各グループで何をするかを決定し、次週に提出するためのワークシートを記入していった（図 2）。ワークシートにはイラスト等も取り入れながら活動内容案が詳細に綴られ、子どもの年齢によってルールを変えたり、見ている保護者

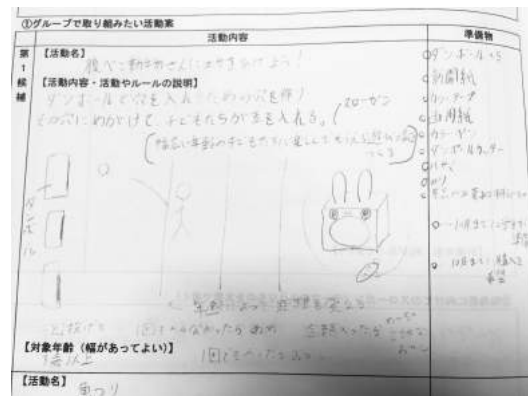


図 2 子ども向け活動案の記録例

等も楽しめるような工夫等、様々な年齢層の子どもたちがわくわくできるような時間・空間をつくりあげようとする試みが見られた。また、怪我や事故が起きないように、安全面に配慮する記述も見られ、学生たちは楽しさを追求するだけでなく前提となる環境面も意識して企画しようとしていることが窺える。

ワークシートは第 16 回（7/31）の授業時に提出され、学生たちは夏休みの準備期間に備えた。

夏休み 三役選挙（8/2）・チラシ作成

キッズランドおよびキッズシアターの企画・準備・運営を統括するリーダーである「二役」を決めるため、学生間で選挙を行った。7月31日に告示され、8月2日に開票・集計した結果、得票数が群を抜いて多い3名を、当初の予定から1名増やし「三役」として決定した。選出された三役からは、今後の活動における抱負などが語られた。

夏休み期間には、9月に「保育実習ⅠA」により全ての学生が保育所実習に出かける。その合間を縫って必要な廃材（ペットボトル、プリン、段ボール、牛乳パック、製作物を持ち帰る用の紙袋など）を集めたりしながら、実習後に改めてキッズランドに向けた準備を再開した。まず、三役が中心となって広報用のチラシの作成に取りかかった。イラストが得意な学生数名に協力を仰ぎながら全てのデザインを学生が担当し、授業担当教員は細かな表現やレイアウト等を修正するにとどめた。チラシ作成を進める過程で、学生間で遊び場コーナーの名称を募集し、その中から「キッズランド」という名称に決定した。

(2) 保育内容演習Ⅱ

第1週（10/2～）キッズランドに向けての計画・準備

夏休みが明け、グループで集まってそれぞれの活動の中身について話し合いや準備を行う時間にあてた。チラシを作成する過程で、それぞれの活動の具体的な内容の調整や確認が必要であることが分かり、中身を吟味しながらチラシ裏面に記載する文面についても決定し、それを受けてチラシを完成させた（図3）。

授業後、完成したチラシは、松江市役所子育て部子育て支援課の協力を得て近隣の保育所・幼稚園・認定こども園に配布した。また、チラシはA4サイズで作成されたが、ポスターサイズに引き延ばした上で本学2号館入口に掲示し、学内での周知を図った。また、三役が中心となって看板を作成し、当日の誘導に備えた。

第2週（10/9～）直前準備

第2回（10/9）の授業では引き続きグループごとに集まり、それぞれの準備作業に取り組んだ。当日が近づくにつれて、学生の意識は活動内容だけでなく誘導・案内の方法や会場のレイアウト、安全な環境の確保（ベビーカー置き場や授乳室の用意を含む）など様々な細かい部分に向けられ始めた。

2) 開催概要

(1) 日時・場所

- ・ 10月13日（土）10時～12時／13時～15時
於：2号館2階多目的ホール
- ・ 10月14日（日）10時～12時
於：2号館2階多目的ホール

(2) 活動概要：あそびブース

- ・ 動物ぱくぱくゲーム（図4）
穴を空けた段ボール箱を動物（うさぎ・さる・くま）の顔に見立て、食



図3 キッズランドチラシ

べ物を投げ入れる。高さや口の大きさに変化をつけ、年齢幅に対応できるように工夫した。

- ・ **コロコロボウリング** (図 5)

ペットボトルに動物の顔を貼り付けたピンに向けてボールを転がしたり蹴ったりして倒す。キッズランド入り口に設置され、ウォームアップや導入として機能させた。

- ・ **巨大迷路** (図 6)

多目的ホール横の音響効果室を全面に活用し、段ボールやビニールテープ、風船を使って作った大きな迷路である。幼児から小学生まで幅広い年齢層に人気を博した。

- ・ **海賊宝探し魚釣り** (図 7)

段ボールで作った海賊船に乗って、青いビニールシートを海に見立てて魚を釣る。釣るときに引っかけるクリップの安全面等に配慮した。

(3) **活動概要：ものづくりブース**

- ・ **ストローブレスレット** (図 8)

カラフルなストローを細かく切ったものと様々な形のビーズを自分で選び、糸に通して自分だけのブレスレットを作る〈身に付ける〉系である。

- ・ **段ボール写真立て** (図 9)

段ボールで作っておいた写真立てにシールやビーズ、木の実などの小物を使ってデコレーションをする、〈飾る〉系である。

- ・ **楽器・ぶんぶんごま作り** (図 10)

廃材を使ってマラカス、カスタネット、太鼓のうち好きなもの、もしくはぶんぶんごまを選んで作る。持ち帰った後も〈遊べる〉系である。

- ・ **ハロウィンのお面作り** (図 11)

オオカミ男、お化け、カボチャの形に切った画用紙に子どもたちが顔を描き、自分だけのお面を作る。それを身に付けてハロウィン仕



図 4 動物ぱくぱくゲーム



図 5 コロコロボウリング



図 6 巨大迷路



図 7 海賊宝探し魚釣り



図 8 ストローブレスレット

様に飾り付けられた撮影コーナーで〈撮る〉系のブースである。

・ぬりえ

学生が自分たちで描いて用意したオリジナルのぬりえコーナーを設けた。順番待ちや小休憩の時に立ち寄ることを想定して設けられたが、多くの子どもたちが集う人気のコーナーとなっていた。

準備の段階で予想していた来場者数は 50 名程度であったが、1 日目の午前の段階ですでに 100 名を超えるほどの来場があり、特にものづくりブースや景品を用意していたあそびブースでは材料が足りず自転車操業のような対応を余儀なくされた。その後学生は、休憩中や 1 日目終了後に急遽 200 名分の材料を追加作成している。最終的に、来場者アンケートに回答いただいた方だけで延べ 198 家庭が来場された。そのうち子どもたちは、幼児（0 歳～6 歳）235 名、小学生以上高校生以下 73 名であり、幅広い年齢層の子どもたちが訪れたことが窺える。また飛鳥祭と同時開催された学科説明会でのキッズランドの説明を聞いた本学を志望

する高校生も訪れ、保育学科について学生たちに質問をしたりする姿も見られた。アンケートからは、学生の笑顔や声かけ、身近な材料を使った手作りの空間や遊び、ブースの種類のも様さなどに対する肯定的なコメントが多く寄せられた。子どもたちが夢中になって遊べる場が設けられたことそのものが多大な地域貢献であるという意見も寄せられ、本活動の地域社会における意義についても改めて示唆された。また、両日参加された方の中には、学生が 1 日目に寄せられた感想を受けて環境面・安全面を改善し 2 日目に臨んだことを賞賛する意見も見受けられた。

4. 学びの記録から見た学生の育ちについて

学生は「保育内容演習Ⅱ」を通して成長したいこと・身につけたいことを自分の中で確認した上で毎回授業後に「学びの記録」を記入し、キッズランド終了後は「飛鳥祭の活動を通じて学んだこと・身についたこと」について振り返りを行った。それら学生の記述を整理し、【子ども理解】【保育者としての専門



図 9 段ボール写真立て



図 10 楽器・ぶんぶんごま作り



図 11 ハロウィンのお面作り

性の向上】【遊びの素材や材料の確保】【学生同士の主体的な自治的な活動】【自分自身の成長】のカテゴリに分類した。以下では、カテゴリごとにそれらの学びを見て取ることのできる記述を報告する。なお、この記述は原文ではなく、個人が特定できないよう抜粋し内容をまとめたものである。

1) 子ども理解

- ・ 子どもが遊びに夢中になり、2度、3度と繰り返し遊びに来て、一つの遊びに没頭する姿を目の当たりにして子どもの追求力やエネルギーを感じた。そして、その子ども達が遊びに夢中になり楽しんでいる姿を見てとてもうれしかった。
- ・ たくさんの子ども達と関わることができた。改めて、子どものもっているパワーや創造性のすごさを感じた。同時に、音楽が気になって耳をふさぎ集中できない特別支援の必要な子どもや恥ずかしくて喋ることができない子ども、順番を無視して並ぶようなルールを守ることのできない子どもなど、想定外のできごとがあり、子ども一人一人の特性や気持ちを汲みとる難しさや支援や声かけの必要性や工夫を学んだ。
- ・ 常に「子どものために」を考え、準備にかかる時間を確保すること、また、実際に子どもを想定して製作したり、遊んだりして準備物やことばがけを考えることが必要だった。

2) 保育者としての専門性の向上

- ・ 子どもが安心してやりたいことを楽しんでできる環境づくりの大変さを子どもの視点から学ぶとともに、改めて子ども目線になって考えることの大切さを学んだ。例えば、子どもに渡すお面の土台をつくるときに、お面の大きさやとりつけるひもの長さなどを年齢に応じたものを考えたり、ひもがとれないように工夫したりする作業は手探りであった。輪ゴムをホチキスで止めることについても、安全面の配慮を多様に考えながら試作を行った。
- ・ 子ども達が楽しく安全に活動できるように企画・準備・運営と最大限の配慮を行うことや子どもの年齢や成長発達、子どもの様子をよく観察して対応や援助の仕方を考えるなど将来保育者になろうとする自分に活かせる活動であった。
- ・ 来場した子ども達一人一人が楽しかったと思えるよう「いっぱい描けたね」「かわいいね」とゆっくりと大きな声で声かけをしたり、視線を合わせて一緒に遊んだりするように心がけた。当たり前のことかもしれないが言葉遣いにも非常に気をつけ、子どもの思いを共有する声かけや子どものもっている力をさらに引き出す声かけを行うよう心がけた。同時に、全体を見通して危険なことは起こっていないか、遊びが停滞している子どもはいな

いかなど、子どもの動きや思いに気づくことの大切さも学んだ。

- ・ 幅広い年齢の子どもに対応するために「転がすレーン」と「キックのレーン」を設置するとともに、「ころがしたり」「キックしたり」する力に応じてボールの大きさ、距離、ピンの間隔を変えて工夫できた。
- ・ 保護者の方も巻き込んで一緒に楽しめるように声かけをしたので、応援したり、写真を撮影したりする方もおられ、子どもが夢中になって真剣に遊んでいる姿は大人も感動させるものだと理解した。
- ・ 他の学生の子どもへのことばかけや立ち位置、視線の向け方などの援助の方法を見て新たな発見があったり、良いところを吸収したりするように心がけた。

3) 遊びの素材や材料の確保

- ・ キッズランドのような活動を計画する際に、ねらいと見通しをもち予算以内で材料を集めたり、買ったりするなど、先を見通した素材の確保や材料集めを行う必要性を感じた。
- ・ どの家庭にもあるペットボトルで子ども達が一生懸命遊んでいる姿から遊びの素材や材料、アイディアはたくさんあることが理解できた。

4) 学生同士の主体的な自治的な活動

- ・ キッズランドを通して子ども達に期待する姿や何をねらって活動を企画するのか学生同士で話し合いが深まった。特に、保育実習で子どもに関わったことで話し合いの質や量が高まり、皆で協力して計画的に行動することができた。
- ・ 学年の仲間やグループの皆で助け合い互いに気づいたことを伝え合うことで責任感や団結力を感じながら三役を中心に組織的な取組ができた。

5) 自分自身の成長

- ・ 人と協力して物事を成し遂げる大切さや自分から積極的に動くことの重要性を学んだ。また、伝える力の大切さを深く学び、社会に出て求められる人材や力は自分から何かを提案することや積極的に発言することだと感じた。
- ・ 自分の発言に対して相手がどう思うのか、反対されたらどうしようと躊躇する自分を反省した。自分の弱点や改善点、良さにも気づくことができた。
- ・ 入学してこのキッズランドの準備期間や飛鳥祭当日は、自分から進んで自分の考えや思いを発言するように心がけた。グループの皆が真剣に受け止めてくれたり、一緒に悩みを解決してくれたりするなど、子ども達の喜ぶ顔を思い浮かべながら学生が皆で意見を出し合って準備に取り組めたことで自ら進んで行動する大切さを学んだ。さらに、自分の考えが採用されて実現できたときに大きな達成感を感じることができた。

- ・ 先を見通した主体的な活動を通して、たくさんの可能性を考え行動することができるようになり自分の力になっている実感がある。これらのことは通常の生活や授業でも役に立つことだと思うし、保育者になるにあたって大切で必要なことだと思う。

5. おわりに

平成 30 年度以降の短期大学部保育学科の保育者養成カリキュラムの中で、学生が主体的に学ぶ授業は「児童文化（ほいくまつり）」が削られたため各種実習と卒業研究のみとなった。学生が受け身で保育に関する知識を理解するだけでは保育者として通用する力は身に付かない。学生が主体となって考え、失敗を繰り返しながら形にし、長期的な見通しを持って計画し行動する模擬保育的な授業実践教育が求められる。今回のキッズランドにおける学生の振り返りからは、まさに学生がそのような力を身につける第一歩を踏み出したことを自らが実感していることが読み取れた。それはすなわち、主体的に行動できる保育者として成長するための基盤を確かにした学びが生まれていることの現れであるといえよう。

【注】

- 1) 教育システムを開発するプロセスのことを指す。その基本的な構成要素は分析 (analyze)・設計 (design)・開発 (develop)・実施 (implement)・評価 (evaluate) であり、ここでは「包括的な設計 (design)」が行われる。それぞれの頭文字をとり「ADDIE モデル」とされるモデルが基本的かつ代表的なモデルとされる。(ガニエ他、2007 年)

【参考・引用文献】

- R. M. ガニエ, W. W. ウェイジャー, K. C. ゴラス, J. M. ケラー (鈴木克明・岩崎信 監訳) (2007) インストラクショナルデザインの原理, 北大路書房.